



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第124号

(隔月刊)

発行：2025. 9.30

(令和7年 9月30日)

発行人：中山 一夫（理事長） 編集人：伊藤 悟（副理事長）

NPO 法人ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)
〒090-0036 北見市幸町7丁目4番28号
ピアソン記念館内
Tel. FAX 0157-31-1215
午前 9:30 ~ 午後 4:30
e-mail / pierson@yacht.ocn.ne.jp



会報のバックナンバー等は、左のQRコードホームページで読むことができます。

「花々が咲き誇る夏場に楽しめるリースをつくりましょう！」と、ピアソン会ハーブ部の意見が一致して初めての試み。「ガーランド」とは、花や葉、旗などの飾りを紐やワイヤーで



第44回文化サロン de ピアソンは、夏休み「親子で楽しむガーランド作り」講習会を8月7日に開催し、2組の親子さんと4名の方が受講し、小学生のお花男子も参加してステキな作品をつくってくれました。

第44回文化サロン de ピアソン 夏休み「親子で楽しむガーランド作り」講習を初めて開催！

2016年5月のピアソン会総会で、記念館前庭の花壇づくりに取り組み、記念になる押し花やリースをつくらうと目標を掲げました。今年9年目を迎え

つないだインテリアの装飾品のことで、今回はピアソンの庭で育てたハーブのミントやカモミール、ラベンダー、ラムズイヤーなどを使ってミニブーケの花飾りに仕立てました。普段はあまり見かけることのないスモークツリーという花材は、淡く、儼く、涼しげで暑い夏を和らげてくれます。



【写真】作ったガーランドの下で、喜びのVサインをする男の子。



て、ピアソン夫妻が愛したお庭の再現に近づいています♡(長)

第46回文化サロン de ピアソン「北欧風クリスマスリース」講習会

◎講習会内容：ピアソンの庭で育てたヒバや蔦を使い、北欧風の香り豊かな自然感溢れるクリスマスリースを作ります。

◎開催日時：2025年11月29日(土)・30日(日)の両日に40組受講可

①午前10時～12時(各日10組)、②午後1時～3時(各日10組)

◎開催場所：ピアソン記念館内

◎参加料：1組1,500円(材料費)

◎講師：増井五夜子ほかピアソンハーブ部会

◎参加資格：親子で1組、1人での参加も可、【問合せ】31-1215(ピアソン会)



素敵な来館者たち！

①

「近江兄弟社」三創立者の一人、吉田悦蔵氏の孫、吉田与志也夫妻の来館！

8月21日、吉田与志也ご夫妻が来館されました。当会中山理事長がお迎えをして館内を案内いたしました。

吉田与志也氏は、長らく薬事業界でご活躍され、現在は立命館大学上席研究員などの席にあり一方、祖父の悦蔵氏が近江兄弟社で果たした役割などを、家に保存されていた私的資料で、6年前に「信仰と建築の冒険」副題『ヴォーリスと共鳴者たちの軌跡』という貴重

な本を著しています。

館内の説明で、旭川時代のピアノン夫妻の話になると、「祖父悦蔵は明治43年に旭川を訪ねていて、ピアノン夫妻やミス・チャンドラと会っています」と、祖父悦蔵の日記に詳しく書かれていたことを教えてくださいました。明治43年となると、ヴォーリス事務所の旭川教会堂の『謎の設計図面』（当会では明治43年に描かれたものではないかと判断していました）のことが頭をよぎ

り、後日情報交換をすることとなりました。歓談を続け、帰りには記念館玄関前で記念写真を撮影をさせていただきました。

翌日、「無事に旅行を終えて自宅に戻りました」とのメールを受け取りました。早速、「謎の旭川教会堂」の情報を吉田氏に送り、「悦蔵氏が旭川に来た目的が、この旭川教会堂図面作成に、来たのではないかと当時の旭川状況から判断していたのですが」との考えを送りました。

図面の祭壇後方の階段通路には、「ピアノン館へ」との説明書きがあること（ピアノンが旭川に在住していた時期の図面と判断した要因や、当時ピアノンがニューヨークから旭川の教会堂の鐘楼に『鐘』を寄贈するため購入していた（その鐘は旭川で使われることはなく現在ピアノン記念館で收藏）ことからの判断、などの考えを伝えました。

吉田与志也氏は、山形政昭氏の著書や悦蔵氏の日記、またこの図面のから、これは、1910（明治43）年ではなく1918（大正7）年の図面で間違いないとの返信が送られて来ました。非常に説得力のある情報収集での見解で、当会の現在までの判断が明らかに間違であることが判明しました。

では何故図面に「ピアノン館へ」と、ピアノンが北見に転居した4年後まで、「ピアノン館へ」との記載があるのか？（言い伝えによると、

ピアノン夫妻が北見転住後、ミス・チャンドラが居住していたとも聞く）。また、旭川での1918年頃の《旭川六条教会》の状況がどうであつたかとみるに、六年間牧師（1912～1918）を勤められていた剣持省吾牧師が4月に大阪梅田教会に転任し、その年の12月まで無牧となつている。その10月にヴォーリス設計事務所図面が描かれていることと何らかの関係があるのか？

また、ミス・チャンドラにも何らかの関連があるのか？

ミス・チャンドラは明治42年に旭川の中学校英語教師として来旭。ピアノン館に住み永山講義所などで、《旭川六条教会》に関わりながら1923（大正12）年まで活動していた人であることは『旭川六条教会六十五年史』で知っていたが、その他については、今回吉田与志也氏の情報提供までわかっていました。

吉田氏の情報によると、

《ミス・チャンドラとはAda B. Chandler / Adaliza Burrows Chandler. 1898年ニューヨークハンプシヤ州生まれ、1899年にアメリカンボード宣教師として来日して神戸で活動後、1907年に札幌に移動1910年には旭川に定着しアメリカンボードから離れ独立伝道者として1923年頃まで活動。旭川の住所は5条通り10丁目。1934年マサチューセッツ州で死去。》

ミス・チャンドラが何故旭川に居

住し約14年間も旭川で活動したのか？非常に興味を唆られる謎が生れました。

今回、吉田与志也夫妻来訪により、永年確信の得られなかったヴォーリス事務所設計の「旭川教会」図面のプランは明治43年ではなく大正7年であるとの確信を得る事ができたことは大いなる成果でした。また、祖父の悦蔵氏がピアノン夫妻とこの年に旭川で会っていたとは最大の驚きでもあります。

夫妻の残されている写真の中で、不明の外国人女性の写真があります。もしかすると、この女性が、ミス・チャンドラでは？との思いも生まれて来ました。今後多くの、来館者の力を借りながらピアノン夫妻の軌跡を調査し、継承していきたいと考えます。（伊藤）



【写真】1915年頃、北見の新築のピアノン邸にて。中央の老夫婦が不明。



9月の3日に根室成央小学校の61名、12日に虹別小学校の21名が来館しました。小学校の修学旅行での来館は、コロナ禍明けの昨年に根室成央小学校の来館が初めてでしたので、本年は1校増えたこととなります。思えば、「ゆとり教育」といわれた時代には、多くの小学校の来館があったことを懐かしく思い出します。

歸りに記念館二階の窓を指差し、クイズで出した窓の鍾おもりと構造を確認していました。

小学校の修学旅行
で、二つの学校が来
館しました。

素敵な来館者たち！②



山ナシの果の落ち
る芝生で、大きな実
を探る園児たち

天気の良い日には近くの幼稚園や保育所の園児たちが多勢先生に連れられてピアソンの公園に遊びに来ます。今年は夏の暑さのためか、公園にあるナシの原木の山ナシがたくさん実をつけました。その実を珍しがって園児たちは拾っています。先生は、「食べてはダメですよ」と注意をしています。昔はジャムにしていたようです。

ナシの実は豊作でしたが、オニグルミと栗の実は不作でした。



建物に興味を持つ生徒、このピアソン邸に出入りした人々に関心を寄せる生徒など、初めて入館する生徒が多かったのでレジメを作成して渡しました。

地元高校生が集団で来館は初めて！。道立北見北斗高校一年生全クラスが、学習科目「倫理」での来館学習でした。

ピアソン宣教師は、約百年前当時の道立中学校の寮を私費でこの町に建てましたが、その中学校が現在の北見北斗高校です。郷土史の勉強も含め活きた倫理学のため2日間に全5学級200名の来館でした。

第45回文化サロン de ピアソン

2025.10.18(SAT) 17:00

～於：ピアソン記念館～

～ 日本郷土民謡三絃 ～

"三柏の森に響く北国の鼓動"

出演者：・仲野魁斗なかのかいと（津軽三味線）・須貝真幸恵すがいまさえ（唄）・須貝星音すがいせな（唄と津軽三味線）



【内容】北海道が開拓されて150年余。入植者が本州各地から集まり、それぞれの地方文化を併せ持つようになった。開拓者が使うそれぞれの生まれ故郷の言葉が今に伝えられ、現在の北海道弁となっていることから北海道弁は日本各地の方言の集大成といわれている。北海道にはアイヌの人々が伝承するアイヌ民謡と、和人（アイヌの人々から見た日本人）に歌われていた民謡がある。移住者やヤン衆らによって故郷の歌が持ち込まれ、それが北海道独自の民謡に生まれ変わったものが、一般的に北海道の民謡と呼ばれている。津軽三味線と唄とお話と、1時間の演奏となります。

◎会場／ピアソン記念館（開場16:30、開演17時～18時）

◎駐車場／第1駐車場玄関前、奥の方から詰めて駐車。第2駐車場（記念館前庭の横下駐車場）

◎チケット／500円（中学生以上）。約40名にて締め切ります。◎問合せ／ピアソン記念館



「ニュージーランドからの便り」第52回



ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏

2025.7.23(水)

タウマルヌイから今日は

◆今日は。北見では殊の外の暑さ、皆様お変わりありませんように。私は今、タウマルヌイで昼食をとっているところです。(南の) ファンガヌイから(自宅のある) ファンガパラオアへ帰る途中です。いつも、このベイクハウス・カフェでランチ休憩です。天候に恵まれ、途中には中央山岳帯の素晴らしい眺望が広がっているのです。



◆ファンガヌイの滞在は快適でした。農園や果樹園の木々は具合よく、池には満水です。鹿の害も思ったほどではなかったです。果樹をちよつと剪定しました。プラムの樹には蕾ができています。では、また。

2025.8.24(日)

春は途上にあり

◆北見の皆様、お変わりありませんように。最近の稀なる高温の中にお過ごしのこと、よくわかります。今頃は少し過ごしやすくなっているでしょうか。ここニュージーランドでは、天候は良いのに、冬の寒さがいつもの冬より厳しく、長引いています。私は毎晩薪ストーヴを使っています。

◆シエークスピアパークでは最初の子羊たちが生まれ、元気に



成長しています。先日、池に、初めてのものが見えました。庭では紫色の木蓮が咲き始めました。

◆皆様に、どうぞ、宜しく。

グラハム・ハード



2025.9.18(木)

ファンガヌイから今日は

◆皆様がお変わりなく、北見のあの高温も少しは過ぎやすくなっていることでしょう。今月は、ニュージーランドでも嵐や強風で、いつもより冷え込んでいました。

◆先週の、ファンガヌイまで車の南下は、とても強い風の中で咲き始めていますが、強風のために、蜂たちは近づけそうもありません。りんごの花はまだで

す。昨日、りんごにつく害虫よけの薬剤を買いましたが、作業は明日まで待たなければなりません。

◆土曜日にファンガパラオアへ戻ります。北見の皆様どうぞ宜しく。 グラハム・ハード

団体会員への感謝状

ピアソン会には、議決権を持つ運営会員、サポーター的賛助会員、そして企業団体にお願いしている団体会員、三種の会員制度で運営しています。企業団体の会員様には永年(勿論全ての会員は同じですが)多くの協力をいただいております。本年はその団体会員に感謝を込めた感謝状を贈ることになりました。10月中には持参します。

なお今後、協力企業名を会報やホームページで公開しても良いかどうかなどのアンケートもいただきたいと思っております。

郷土の宝物である文化財の保存等にご協力いただいている企業名を、もっと広く市民にも周知したいという当会の意向もありますのでよろしくお願い致します。

また、今後各種会員皆様には、ピアソン会のグッズのプレゼントも考えています。

編集後記

あの暑く長い夏から、北国らしい秋へと季節が急激に変わってしまいました。朝晩は体温調整に気を使う日々でもあります。

9月に入ってから、団体の来館者が増加しています。小学校の団体が2件、市内の高校の学習で5クラスの来館、社会人研修団体1件と、新型コロナウイルス感染症が流行する以前に戻ったかのような来館となってきました。今回は、「素敵な来館者」として紹介記事を編集してみました。

ピアソンの公園にちよつとした異変があります。昨年たくさん実を付けたオニグルミが今年はほんの少ししか実を付けませんでした。リンゴもダメでした。しかし「山ナシ」は驚くほど実を付け、落下した実がゴロゴロと芝生の上に転がっています。本来「山ナシ」の木は、もっと暖かい地域のもので、北見にあること自体珍しいと云います。多量の実を付けたのは温暖化による適応的現象でしょうか？

今回室内コンサートは地域に根ざした民謡を取り上げて見ました。開拓民の心を癒す「民衆の歌謡」、また津軽三味線をお聞きたいたく企画です。(副理事長兼事務局長 伊藤 悟



瞳ふあっしょん・瞳けあ

めがねのよっしー

代表 岩井 敏 忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯. 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時